



AT-TQ2403 リリースノート

この度は、AT-TQ2403 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.0.2

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.0.1** から **3.0.2** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 ネットワークマネージメント・ソフトウェアで MAC アドレスフィルタリングのエントリが正しく表示されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.2 ダイナミック VLAN を使用するクライアントが接続する際に、通常より接続に時間がかかることがありますが、これを修正しました。
- 2.3 ダイナミック VLAN 環境において、セキュリティーモードで「WPA エンタープライズ」を選択した場合、頻繁に接続・切断を繰り返す無線クライアントが存在すると、接続中の他の無線クライアントに対して、AP からのブロードキャストが到達しなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.4 ダイナミック VLAN 環境において、セキュリティーモードに「IEEE 802.1x」を選択した場合、無線クライアントとの切断が発生すると、他の無線クライアントとの接続も一時的に切断されていましたが、これを修正しました。
- 2.5 本製品を起動後、SSID を変更すると、まれに無線インターフェース 1 または 2 のどちらか一方のビーコンが停止することがありますが、これを修正しました。
- 2.6 WDS (Wireless Distribution System) において、片方のアクセスポイントの電源を切り、ネットワークマネージメント・ソフトウェアから Private MIB (ATKK-WLAN-ACCESS-MIB) にアクセスするとタイムアウトが発生することがありますが、これを修正しました。
- 2.7 SNMP マネージャーから atkWiAcMacACLModeConfig を正しく取得できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.8 ファームウェアのアップグレード時にレポートすることがありますが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.0.2** には、以下の制限事項があります。

3.1 本製品のご使用にあたって

- 本製品の起動中は、ネットワークの使用をお控えください。本製品がトラフィックを受信している場合、起動しないことがあります。
- 本製品の Web 設定には、必ず Microsoft Internet Explorer Version 6 または 7 をご使用ください。

3.2 ローミング

ローミングが発生して無線クライアントが他のアクセスポイントに接続した後、再度ローミングが発生してその無線クライアントが元のアクセスポイントに再接続すると、その無線クライアントは最初にローミングしたアクセスポイントに接続している他の無線クライアントと、最長で5分間通信ができなくなります。

3.3 ダイナミック VLAN

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「セキュリティ」](#) / [「WPA パソナル / エンタープライズ」](#)

ダイナミック VLAN 環境において、セキュリティモードで「WPA エンタープライズ」を選択した場合、無線クライアントに VLAN 間のローミングが発生すると、無線クライアントとの接続が切断されます。無線クライアントをアクセスポイントに自動的に接続するように設定して、再接続するようにしてください。

3.4 イーサネット設定

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスを限定」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。

3.5 無線設定

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「パースト時の速度制限」に「速度制限」に設定した値以下の値を設定できてしまいます。

3.6 VWN について

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「VWN」画面で各々の VWN を有効にし、いったん無効にしてから再度有効にすると、VWN の設定のうち、VLAN ID の設定だけが削除されます。SSID やセキュリティなどの設定は残ります。
- 「VWN」画面の「セキュリティ」で「スタティック WEP」を選択した場合、認証方式の選択ができません。実際には「オープンシステム」認証が行われます。

- 有効な VWN の数が増えると、MAC フィルタリングの設定が、すぐに反映されないことがあります。VWN と MAC フィルタリングを併用する場合は、MAC フィルタリングの設定後に本製品を再起動してください。

3.7 WDS

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDS の「暗号化」で「WPA (PSK)」を使用する場合、「セキュリティ」画面の「WPA パーソナル」または「WPA エンタープライズ」の「暗号スイート」のチェックボックスの設定（チェックの組み合わせ）は、WDS で接続するもの同士、完全に同一となるようにしてください。設定が異なっていると、WDS 接続ができません。

3.8 イベント

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

DFS によるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がはいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

3.9 送信 / 受信

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

- 「送信 / 受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。
- フレームサイズが 1544 バイトを超えるパケットは、正常にカウントすることができません。

3.10 SNMP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

本製品を起動してから長時間（8 日間程度）経過すると、MIB-II の system.sysUpTime の値が正しくなくなることがあります。Web 設定画面では正しい値を表示します。

3.11 ファームウェアのアップグレード / ダウングレード

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜きなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

4 ユーザーマニュアルの補足

ユーザーマニュアル (613-001037 Rev.C) の補足事項です。

4.1 PoE 機器接続時の注意

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「設置と接続」](#) / [「電源の接続」](#)
/ [「IEEE 802.3af 準拠の機器による電源の供給」](#)



給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなおす場合は、2、3 秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品または接続機器の故障の原因となる恐れがあります。

4.2 入力文字列について

本製品の Web 設定画面では、文字列の入力に ASCII 文字コードのみを使用できます。また、項目によっては入力できない文字が存在します。詳しくは、ユーザーマニュアルを参照してください。

4.3 イーサネット設定

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

4.4 無線

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「無線」画面で「無線 1」または「無線 2」のどちらか一方の「ステータス」を変更すると、もう一方の無線も一時的にリンクダウンします。

4.5 VWN について

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- VWN 機能を有効にすると、クラスター機能が動作しないことがあります。VWN 機能とクラスター機能を併用する場合は、「イーサネット設定」画面の「内部ネットワークインターフェースの設定」の「VLAN ID」と「管理 VLAN ID」に同じ値を設定してください。
- 有効な VWN の数が増えると、本製品の CPU の負荷が高くなりスループットが低下します。有効にする VWN の数は、5 個までにすることをお勧めします。

4.6 WDS

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDS と VWN (パーチャル・ワイヤレス・ネットワーク) の併用はできません。

4.7 ユーザー管理

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ユーザー管理」](#)

ASCII 以外の文字コードを含むユーザー情報は編集できません。

4.8 セキュリティー

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「セキュリティー」](#)

本製品で内蔵 RADIUS サーバーを使用した認証を行う場合、SP1 または SP2 を適用していない Windows Vista 内蔵サブライアントを使用したクライアントからは接続することができません。

4.9 SNMP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- Link UP/DOWN トラップは、無線接続された SNMP マネージャーには送信されません。
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートの Link UP/DOWN トラップは生成されません。

4.10 Ping

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「Ping」](#)

ローカルループバックアドレス (127.0.0.1) やマルチキャストアドレスなどの予約済みの IP アドレスに対して、PING を実行することができます。

4.11 NTP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「NTP」](#)

本製品で表示される時間は、NTP サーバーより最大 20 秒遅れます。

4.12 設定のリストアとバックアップ

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

- バックアップした設定ファイルを本製品にリストアし、再度バックアップすると、異なるサイズの設定ファイルが生成されます。
- バックアップファイルにパスワードが保存されないため、設定をリストアしてもパスワードはリストア前のパスワードのままになります。

4.13 ファームウェアのアップグレード / ダウングレード

 「ユーザーマニュアル」 / 「本製品の設定」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

- 専用書き換えプログラムで、V.1.1.2 → V.3.0.2 のアップグレードを行うと、SNMP マネージャーで SET されていた項目（ロケーションなど）がリセットされます。
- V.2.1.x で作成された設定のバックアップファイルを、V.1.1.2 の本製品にリストアした後、TQ Firm Upgrader.exe を実行すると途中で初期化され、バージョンアップに失敗します。
- ファームウェアのアップグレードを実施する際は、アップグレード前に本製品を再起動してください。

5 ファームウェアのアップグレード

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

5.1 V.2.1.x 以降→V.3.0.2 アップグレードの補足

V.2.1.x 以降から V.3.0.2 へのアップグレードは、本製品の Web 設定画面で行います。

 「ユーザーマニュアル」 / 「本製品の設定」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

ただし、V.2.1.0 から V.3.0.2 へのアップグレードの場合は、アップグレードを行う前に、以下の 2 点を実行してください。

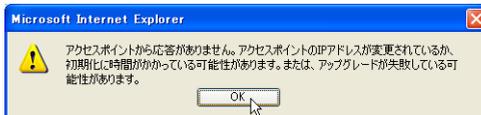
1. 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「<>'&」を使用している場合、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
2. 管理者ユーザー（manager）のパスワードとして、9 文字以上の文字列を設定している場合は、8 文字以内のパスワードに変更してください。

管理者ユーザーのパスワードとして、9 文字以上の文字列を設定したまま、アップグレードを行ってしまった場合、以下の手順で対応してください。

1. 「ユーザーマニュアル」 / 「本製品の設定」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」の手順 7 の最後の段階で、パスワードを要求するダイアログボックスが表示されます。



2. そのまま、4～5 分待ち、下記のエラーメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックし、メッセージボックスを閉じてください。



- 手順 1 のパスワードを要求するダイアログボックスの「キャンセル」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じてください。閉じない場合は、閉じるまで「キャンセル」ボタンをクリックしてください。
- Web ブラウザーを終了してください。
- Web ブラウザーを起動し、本製品の設定画面にログインします。管理者ユーザー (manager) のパスワードとして、アップグレード前に設定されていたパスワードの 8 文字目までを入力してください。

5.2 V.1.1.2 → V.3.0.2 アップグレード

重要：専用書き換えプログラムを実行するコンピューターは、本製品と同一のネットワークに接続してください。ルーターを経由すると、専用書き換えプログラムが正常に動作しないことがあります。

本製品のファームウェアの V.1.1.2 からのアップグレードは下記の専用書き換えプログラムで行います。

TQ Firm Upgrader_V112_to_V302.zip

プログラムは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

アップグレードの手順は、以下のとおりです。

V.1.1.2 よりも前のバージョンからの V.3.0.2 へのアップグレードは、本製品の Web 設定画面で V.1.1.2 にバージョンアップした後、以下の手順を実行してください。

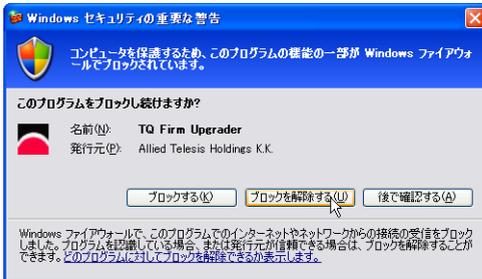
- 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「<>'&」を使用している場合、アップグレードを実行する前に、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
- 安全のために設定のバックアップを取ってください。
- 専用書き換えプログラムを解凍し、「TQ Firm Upgrader.exe」をダブルクリックしてください。



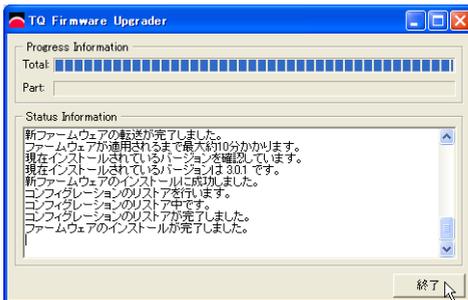
- 「IP Address」にアップグレード対象となる AT-TQ2403 の IP アドレスを入力し、「Password」に管理者 manager のパスワードを入力して、「OK」をクリックしてください。



- 下記が表示される場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



- ファームウェアが適用されるまで、最大約 20 分かかります。アップグレードが完了したら、「終了」をクリックしてください。



重要：ファームウェアのアップグレードの実行中は、本製品の電源をオフにしたり、再起動しないでください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

7. ログファイルが保存されます。
ログファイルは「IP アドレス .log」という名前を持ちます。



8. V.1.1.2 のときの設定は V.3.0.2 に引き継がれます。
また、アップグレード前に管理者ユーザー (manager) のパスワードが 9 文字以上だった場合は、本製品の設定画面にログインする際に、アップグレード前に設定されていたパスワードの 8 文字目までを入力してください。
SNMP を使用していた場合は、ロケーションなどを再設定してください。

 **参照** 「リリースノート」 / 「4 ユーザーマニュアルの補足」 / 「4.13」

6 ユーザーマニュアルについて

最新のユーザーマニュアル (613-001037 Rev.C) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のユーザーマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのユーザーマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>